

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
<b>祛湿剂 清熱祛湿剂 12</b>		
にみょうさん 二妙散	清熱燥湿	黄柏 9g・蒼朮 9g 水煎し服用する。等分の粉末を水で丸にし、1日3回6~9gずつ湯で服用してもよい。
丹溪心法	<p>&lt;主治&gt; 湿熱蘊結下焦 下肢の発赤、腫脹、疼痛、熱感、あるいは下肢の軟弱無力、歩行障害、あるいは湿疹など、あるいは腥臭のある黄色帯下がみられ、尿が濃く少ない、舌苔が黄膩を呈す。</p> <p>&lt;病機&gt; 湿熱が下焦に蘊結したために生じるさまざまな病態である。 湿熱が下肢の筋肉や関節に蘊結すると発赤、腫脹、疼痛、熱感が、筋脈に停滞して筋を弛緩させると軟弱無力、歩行障害が、肌腠に滞ると湿疹などの皮疹が、帯脈に注ぎ前陰に下注すると腥臭のある帯下、がそれぞれ発生する。尿が濃く少量、舌苔が黄膩は、湿熱を示す。</p> <p>&lt;方意&gt; 本方（二妙散）は苦寒の黄柏と苦温の蒼朮を組み合わせている。 黄柏は寒性で清熱し辛味で燥湿し、蒼朮は苦温により強く燥湿するので、両薬を配合することにより清熱と燥湿の効能が得られる。</p> <p>&lt;参考&gt; 現在では多くは丸剤として用いられ、「二妙丸」と称している。 湿熱による痿証、痺証などが本方の対象になる。</p> <p>加減法 痿証には、祛風湿、強筋骨の五加皮・豨僂草・鹿蹄草などを配合する。 浮腫には、滲湿降濁の薏苡仁・木瓜・檳榔子などを配合する。 黄色帯下には、滲湿止帯の芡実・樗根白皮・茯苓などを配合する。 湿疹、化膿症などには、清湿熱、解毒の竜胆草・薏苡仁・赤小豆などを配合する。</p>	
さんみょうがん 三妙丸	清熱燥湿	黄柏 120g・蒼朮 180g・牛膝 60g （二妙散の組成 + 牛膝）に相当する。 粉末を小麦粉で丸にし、1回6~9gを服用する。
医学正伝	<p>主治は、湿熱蘊結下焦。 本方（三妙丸）は、二妙散に、祛風湿、補肝腎、引血下行に働く牛膝を加えており、下焦湿熱の両脚のしびれ、痛み、軟弱無力などにより効果がある。</p>	
しみょうさん 四妙散	清熱利湿	黄柏 200g・蒼朮 120g・牛膝 120g・薏苡仁 200g （三妙丸の組成 + 薏苡仁）に相当する。 水で丸にし、1回6~9gを服用する。
傳青主女科	<p>主治は、湿熱蘊結下焦。 本方（四妙丸）は、三妙丸に祛風湿、清熱利水の薏苡仁を加えたもので、利湿清熱の効力が強められている。</p>	